



令和6年度 富山市立水橋西部小学校

天瀬っ子

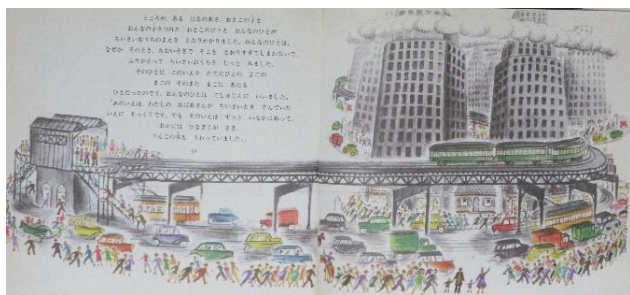
学校だより 10月号



想像力を喚起する絵本の力

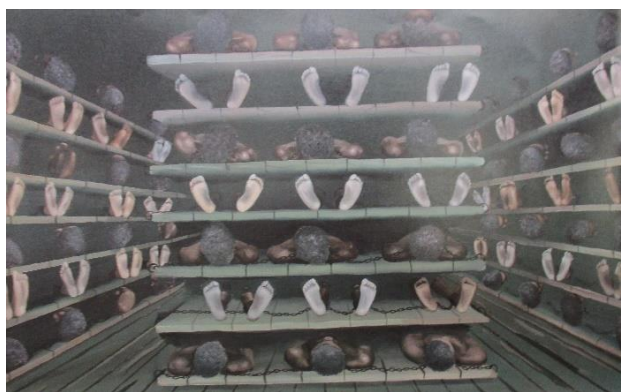
図書主任 水橋 透

毎年秋に図書委員会主催で読書に関する児童集会を開催しています。委員会の話合いで、「今年は、年度当初に立てた委員会の目当て『みんなが好きな本に出会い、お勧めの本を言い合える天瀬っ子にする』をより意識した集会にしよう」と投げかけると、子供たちからとてもユニークな提案がありました。「とっておきの本を紹介し合うじゃんけん列車がしたい」というのです。「音楽に合わせて散歩し、誰かと出会い、挨拶して、手に持った本を紹介し合う」というこの企画。せっかくの提案なので、気恥ずかしさを乗り越えて、全校児童が前向きに取り組んでくれたらいいなあと思っています。



ところで、保護者のみなさんには「とっておきの絵本」はありますか？幼い頃大好きだった絵本は思い浮かぶでしょうか。例えば「はらぺこあおむし」の色彩鮮やかな絵は、きっと多くの人の脳裏に焼き付いていることだと思います。私は今回の「じゃんけん列車」には、バージニア・リー・バートンの「ちいさいおうち」を持って参加しようと思っています。

声高でない静かな近代文明批判の内容も素晴らしいのですが、開発され、やがて大都会に変貌する様を描いた見開きページを、田舎育ちの私は、憧れをもって眺めたものでした。



「今から怖い絵を見せます。何を表しているかわかりますか？」

昨年度の集会で、私は左の絵をスクリーンに写して子供たちに問いかけました。二つずつの楕円は足の裏です。なぜ並んでいるのか。これは薄暗い奴隷船の船内なのです。図書室の片隅にあった「あなたがもし奴隷だったら・・・」という絵本のこのページを見たとき、私は衝撃を受けました。否応なしに船内の環境が想像されます。むせ返

ような臭い、汗、糞尿、吐瀉物、揺れ、嗚咽、錯乱、伝染病、静寂・・・人が人に対してこのような扱いをしていたことに対する驚愕。幼い児童が受け止めるには、あまりに重い歴史の闇、過ちであるとは知りながら、私は自分の心が揺さぶられた体験を伝えたくて、この絵を紹介したのでした。

ページをめくると、自分の認識や思考や感性の枠を超えた表現が目飛び込んで来て、心が揺さぶられることがあります。そんな経験が人の心を豊かにし、知的好奇心の翼を拡げるのではないのでしょうか。動画視聴やオンラインゲームに多くの時間を遣っている現代の子供たちです。ご家庭での読書時間確保の取り組みに、期待します。